

【専門科目領域/専門科目群/看護の展開/老年看護学】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
老年看護学概論	NSP11_005	必修	1	1	後期
担当教員	研究室	電子メールID	オフィスアワー		
東福寺 愛実	401	narumi.tofukuji	授業実施日の 12:10-13:00		
授業の目的・概要	<p>老年期にある人の特徴を、心身の成長発達と発達課題、生活と社会環境・社会保障、家族の特徴、健康特性等から総合的に探究し、老年期にある人と家族に対する看護の目的と役割を学習する。その上で継続看護の重要性を理解し、各種施設における看護、保健医療福祉連携・協働の必要性を学習する。さらに老年期にある人と家族に対する看護実践において有効な諸理論と技術について学修する。また、サクセスフルエイジングやアンチエイジングに対する看護について理解する。</p>				
授業形式・方法	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> デイカッション・イベント <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> その他 () </p>				
学習上の助言	<p>老年期にある人の特徴を理解し、施設・病院での看護実践、家族援助の方法、社会資源の活用、老年期にある人をめぐる社会制度などについての理解を深められるよう、事前に教科書を熟読しておくことが望ましい。</p>				
教科書	<p>ナーシンググラフィカ老年看護学(1)高齢者の健康と障害(第8版)/編:堀内ふき 他/メディカ出版/2025 ※この教科書は2年次「老年看護援助論」においても使用する。</p>				
参考書	特になし				
外部教材	特になし				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	老年期にある人の身体的・心理的・社会的特徴について説明できる。		HSU(2), NS (1)(2)(3)(4)		
②	老年期にある人の心身の成長発達とその課題を説明できる。		HSU(3), NS (1)(2)(3)(4)		
③	高齢社会における人口、受療に関する統計の特徴、保健医療福祉について説明できる。		HSU(2), NS (1)(2)(3)(4)		
④	高齢者の意思決定や権利擁護について説明できる。		HSU(1)(3), NS (1)(2)(3)(4)		
⑤	高齢者の健康維持・増進と予防について説明できる。		HSU(3), NS (1)(2)(3)(4)		
⑥	高齢者の生活を支える看護について理解できる。		HSU(1)(3), NS (1)(2)(3)(4)		
授業計画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	高齢者の理解 (1) : 老年期の定義、諸統計、高齢者にとっての健康について学ぶ	講義	教科書の該当部分を読み、講義で学んだ内容を復習する。	2	
2	高齢者の理解 (2) : 高齢者にとっての健康、高齢者の QOL、加齢に伴う変化について学ぶ	講義	教科書の該当部分を読み、講義で学んだ内容を復習する。	4	
3	高齢者を取り巻く社会について学ぶ: 高齢者を支える諸制度、社会資源	講義	教科書の該当部分を読み、講義で学んだ内容を復習する。	4	
4	高齢者看護における倫理について学ぶ	講義・GW	教科書の該当部分を読み、講義で学んだ内容を復習するとともに、自分なりの考えをまとめておく。	4	
5	地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護について学ぶ	講義	教科書の該当部分を読み、講義で学んだ内容を復習する。	4	
6	高齢者看護の基本: 高齢者看護の特性、高齢者看護に関わる諸理論、基本的な考え方について学ぶ。	講義・GW	教科書の該当部分を読み、講義で学んだ内容を復習するとともに、自分なりの考えをまとめておく。	4	
7	高齢者の健康維持・増進と予防について学ぶ。	講義	教科書の該当部分を読み、講義で学んだ内容を復習する。	4	
8	高齢者の生活を支える看護について学ぶ コミュニケーション、セクシャリティ、社会参加	講義・GW	教科書の該当部分を読み、講義で学んだ内容を復習する。授業を通して得た学びをまとめる。	4	
試	定期試験				

【専門科目領域/専門科目群/看護の展開/老年看護学】

		達成度評価						
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計	
総合力指標	知識・技術力	80	10	0	0	10	100	
	思考・推論・創造する力	70	0	0	0	0	70	
	思考・推論・創造する力	10	0	0	0	0	10	
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	5	5	
	発表・表現伝達する力	0	10	0	0	0	10	
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0	
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	5	5	
問題を発見・解決する力	0	0	0	0	0	0		
		評価のポイント					フィードバックの方法	
評価方法	行動目標	評価の実施方法及び注意点						
試験	①	✓	定期試験の範囲は講義全体を対象として出題し、80点満点とする。知識・技術力を中心に評価する。					試験後に試験問題と解答についてコメントを行う。
	②	✓						
	③	✓						
	④	✓						
	⑤	✓						
	⑥	✓						
レポート	①		高齢者に対する理解や倫理、自身が考える高齢者看護に大切なことについてレポートする。授業で学んだ内容をもとに自身の考えが述べられているかを評価する。					レポート提出後、全体にコメントを返す。
	②	✓						
	③	✓						
	④	✓						
	⑤	✓						
	⑥	✓						
成果発表	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
ポートフォリオ	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
その他	①		講義・GWの主体的な態度を評価する。全日程に出席を前提とし、理由のない欠席は授業への取り組み姿勢・意欲の不足と捉える。					欠席が続く、提出物が遅れる、態度面が気になるなどの場合は個別に指導を行う。
	②							
	③							
	④	✓						
	⑤							
	⑥	✓						
備考								
他担当教員	なし							
教員の実務経験	科目責任者は高齢者施設を含む病院の看護師歴 15年以上の実務経験を有する。							
実践的授業の内容	高齢者の特徴や高齢者看護の基本的な考え方について学んだ事が、看護実践の場でどのように生かされるか具体的に説明する。							
その他	この講義は、今後の社会情勢によって再度シラバスを変更する可能性がある。シラバス変更の際はあらかじめメールまたは teams にて連絡をする。毎回の講義内容に該当する教科書の範囲を予習し、基本的な内容を理解した上で講義に臨むこと。授業中の携帯電話、スマートフォン等の使用は、指示があった場合を除き禁止する。							